

コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> Hook.f. f. <i>pseudotigrinum</i> (Carrière) H.Hara et Kitam.	準絶滅危惧
		ユリ科
選定理由	かつて見られた多くの生育地が急激に減少し、個体数も大きく減少しており、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。	<p>写真(高橋弘)</p>  
形態の特徴	高さ50-100cm。葉は互生し、線形から狭披針形、長さ(4-5)-15cm、幅4-8(-10)mm。花は総状花序に1-8個つき、横から斜め下方に開く。花被は基部から強く反曲する。花被片は披針形、長さ6-8cm、幅1.4-1.8cm、赤橙色、内面に多数の黒紫色の斑点がある。	
生態的特徴	草原や林縁に生育する多年草。花期は8-9月。	
分布状況	朝鮮、中国北部、ウスリーに分布し、日本では北海道から九州にある。岐阜県では県南中部辺りを除き、ほぼ全県の標高1600m以下に見られる。	
減少要因	開発による草原の減少と採取。草原に火入れや草刈りをしなくなったことも一因である。	
保全対策	生育地の保全と草原の維持及び採取の禁止。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘